

4. 流産防止剤の催心奇形性に関する調査

東京女子医科大学 心臓血圧研究所

高尾 篤良

昭和50年度の調査

目的：先天性心奇形の大部分がPolygeneによるmultifactorial inheritance with threshold characterで説明されるとすると、心奇形に対する素因（遺伝）と環境要因の相互作用の結果として出現してくることになる。

遺伝と環境の両要因を含めた易罹病性Liabilityは発端者index caseと同胞間では近似している。したがって、今回の調査では、心奇形発端者（罹患者）とその同胞で非心奇形者が出生した場合の妊娠歴について、流産防止剤の使用状況を調べ、流産防止剤が心奇形へのなり易さのしきいを動かすものか否かをみてみた。

対象と結果

表1に示す如く、各種心奇形児出産母体の該児

妊娠中の妊娠歴と、同一母体が心奇形児出産の前または後に非心奇形正常児を出産した場合のその妊娠歴を対照として、流産防止剤の使用の有無を調べ比較した。

心奇形出産時の妊娠歴では13/137(9.5%)
正常児出産時の妊娠歴では7/80(8.7%)で有意の差はなかった。

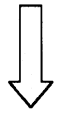
結 論

血縁のない正常児出産の妊娠歴を対照とした調査よりも、今回の如く、心奇形者の正常同胞出産妊娠歴を対照とした方が、しきいを動かす要因の検索によいと思われるが、上述の調査では、流産防止剤が易心奇形性のしきいに対し有意に作用しているとはいえなかった。

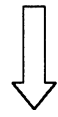
CHD AND HORMONE THERAPY

	NO	HORMONE THERAPY DURING FIRST TRIMESTER
VSD	53	4 (7.5%)
TOF	19	4 (21%)
ASDII	8	0
PDA	6	0
PS, PPA	6	0
TGA COMPLEX	18	0
OTHERS	27	5 (10.5%)
TOTAL	137	13 (9.5%)
CONTROL*	80	7 (8.7%)

*HEALTHY SIBLINGS OF CHD PATIENTS



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和 50 年度の調査

目的:先天性心奇形の大部分が Polygene による multifactorial inheritance with threshold character で説明されるとすると,心奇形に対する素因(遺伝)と環境要因の相互作用の結果として出現してくることになる。